

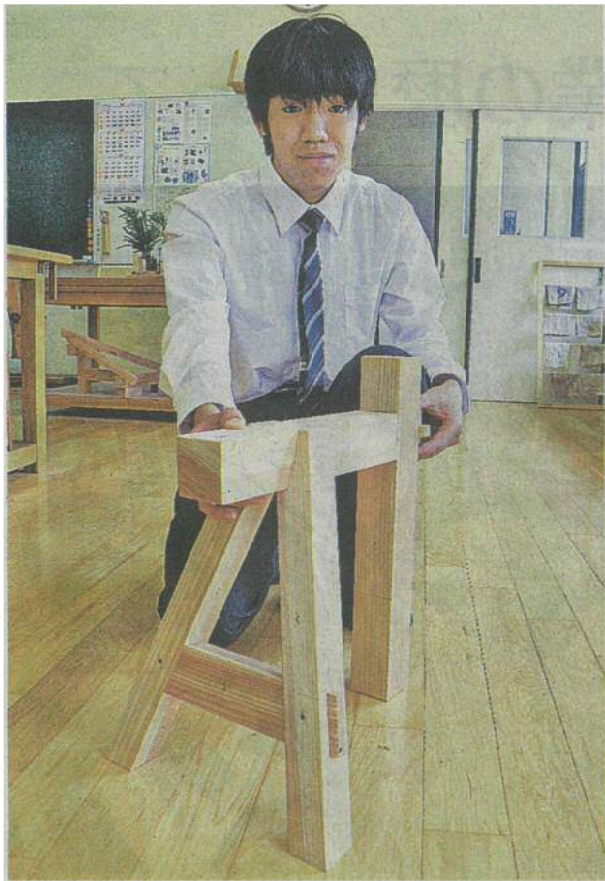
出雲工業高・池田さん 全国へ

ものづくりコン 中国大会で優勝

悔しさばねに技術磨く

出雲工業高校（出雲市上塩治町）建築科3年の池田直輝さん（17）が6月16、17の両日、山口県下関市であった高校生ものづくりコンテスト中国大会の木材加工部門で優勝し、山陰勢初の全国大会出場を決めた。昨年の中国大会で敗退した悔しさをばねに技術を磨いた努力が実った。「出からには優勝を狙う」と11月の大舞台を見据える。

（松本直也）



中国大会で優勝した作品を手にする池田直輝さん—出雲市上塩治町、出雲工業高校

コンテストは、全国工業高等学校長協会が毎年企画。木材加工部門は配布された材料を加工し指示された作品を時間内に作り、正確さを競う。

出雲市内であった山陰大会を1位で突破し出場した中国大会は、鳥取県を除く4県7校から8人が出場。初日は制限時間40分の製図、2日目は3時間で作品を制作した。

課題はスギの角材6点を、かななやのみなど20種類の道具で加工し、椅子の脚のような作品（高さ50センチ、幅30センチ、奥行き40センチ）を作る。木材に穴を開けて差し込む「ほぞ継ぎ」、のこぎりやのみで加工して接合する「蟻落とし」といった高度な技術が試される。接合部が0.1ミリずれる

だけで完成時に3ミリの隙間が生じるため、「一つ一つの加工を正確にやることを意識した」とかななげから丁寧に取り組んだ。作品は傷が入ってしまうミスがあったが、現代の名工らによる審査では「完成度が高く減点するところが少なかった」と高く評価された。

昨年、初出場した中国大会は時間内に完成できず、全国大会出場を逃した。悔しさとともに全国への思いが強くなった。

平日の放課後は2時間、作品を制作しては失敗点の原因を探って解消のための練習を繰り返す。技術、作業スピードが向上。「努力が報われた」と喜ぶ。所属するものづくり研究部顧問の三好良教諭（37）からも「努力の積み重ねで技術、知識が群を抜いている逸材だ」と言わしめる。

中国大会（長崎県大村市）は全国9地区の代表ら10人で競う。池田さんは「中国大会の課題を克服すれば優勝は見えてくる」と自信をのぞかせた。